職員記憶ケアネットワーク No.87

高梁市の地域包括ケアシステムを振り返って

高梁医師会会長 仲田 永造

平成23年、高梁医師会の会長が池田元子先生で私が副会長の時に、備北保健所と高梁市と高梁市の医療介護の多職種と医師会が顔の見える関係作りに取り掛かっています。平成25年からは、岡山県の医療介護連携推進拠点事業を高梁市が中心となって取り組む体制ができて、さらに地域包括ケアを充実させるために高梁医師会が協力して進めています。

地域包括ケアを進めるに当たり、最大の問題点は人手不足です。これを解消するために、 看護師・介護福祉士の魅力と必要性を若い学生さんに発信し、地域のために私たちと一緒に 頑張ろうと呼び掛けを続けています。「高粱かんごねっと」では、訪問看護ステーションの 連携・看護師のためのスキルアップ・リーダー育成の研修事業等を続けることにより、現場 で仕事をする人が若い人たちの目標になれるように頑張っています。

昨年から今年にかけてコロナ禍のため、人と人とが顔を合わせて進めることが大前提の地域包括ケアネットワークは今までの様に進められません。そのために会議・研修会をWeb開催やDVD記録により自分の生活に合わせて勉強ができるように考えました。また、毎年高梁市医療介護連携推進協議会が中心で進めている市民公開講座は、在宅医療とACPをテーマに吉備ケーブルテレビのご協力を得て、医療介護多職種の出演によるACP寸劇「やまじいの在宅医療」を録画し、放映することができました。さらに、この市民公開講座では、市内の4病院の高梁中央病院・大杉病院・たいようの丘ホスピタル・成羽病院の活動と特徴を市民に伝え、安心して地元で医療が受けられる企画も続けています。ケーブルテレビでの放映は、一昨年までの高梁市総合文化会館で開催していた時以上の多数の市民に見ていただくことができ、2020年度は大成功に終わりました。2021年度も続けていく予定です。

在宅医療推進の成果を見る為に、高梁市内で亡くなられた方の死亡場所別の統計を毎年取っています。自宅と市内介護施設を合わせた死亡者数が今までは14%前後でしたが、2020年度は19.3%になりました。私たちの活動が徐々に実ってきているのでは、と思っています。

今年度はコロナ禍も含めて、災害時に各病院が情報共有して、個別の対応ではなく、協力 して市民に医療を届けられる体制を作る一歩として、各病院の看護部長と高梁医師会のかん ごねっと事務局がホームページの掲示板を通じて情報共有し、晴れやかネット「やまぼうし」 の会議システムを利用して話し合いを進める体制を構築していきます。

アフタコロナが来た時には、より進化した地域包括ケアシステムとなるように、今できる ことを少しずつ進められればと思っています。